



# 人気上々の 清原太兵衛伝

## 佐陀川開削に活躍

宍道湖と日本海を結ぶ佐陀川開削に身をまぎけた清原太兵衛の生涯を描いた伝記本が、地元の鹿島町や松江市で人気を呼んでいる。松江市内の書店の人気本ベスト10に十月から五週連続で名を連ねるなか、書店関係者は「中年層を中心に関心を呼んでいる。郷土をあらためて見つめ直す伝記」と評価している。

## 郷土見つめる機会に

松江の書店 5週連続「ベスト10」

発行所は、県内の地元の偉人の顕彰活動として出版事業を手掛けているHNS研究所（松江市浜乃木、佐々木武男本部長）。これまでに、江戸時代の大規模な河川改修に私財を投げ打ち、八雲村を洪水から守った周藤弥兵衛の伝記も出版している。

清原太兵衛は、江戸中期に宍道湖北岸と鹿島町側の日本海を結ぶ水路の開削工事に生涯を懸けた人物。町合併四十周年を迎えた鹿島町が懸賞募集した小説に加え、漫画、児童文学の三部作をそろえて出版した。

松江市などでは同社が書店を通じ十月から販売を始めた。郷土の偉人伝記として静かな人気を呼んでいる「清原太兵衛」

て十位入りした後、十一月十日の五位を最高に五週連続でベストテン入りを記録した。

地元の偉人を取り上げた伝記の人気に同店の佐藤安政店長は「中央までは名が通っていないが地域に貢献した先人は多く、そこにスポットを当てた類書はなかった。郷土の偉人に新たな発見があるのではないかと話している。」